

(学校番号066)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【栄小学校】

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況に個人差が大きい。 <指導上の課題> 反復や習熟の時間が十分に確保できていない。自分の学びを次の学びへ生かすための振り返りの時間が設定されていない。	⇒	「ドリルパーク」や「プレテスト」等を活用し、漢字や計算等の反復・習熟に取り組む。【週に1度(ぐんぐんタイム)】 児童が自分の学びを次の学習へ繋げていけるように、振り返りの時間を設定する。【毎時間】 学びを深める時間を活用し、一人ひとりの学びを進める。【単元ごと】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 理由や根拠を明確にして、自分の考えを表現することに課題が見られる。 <指導上の課題> 児童が主体的に学習計画や学習課題を設定する学習活動が少ない。	⇒	児童が自分の考えをまとめ表現する際、オクリンクプラスやCanva等を活用し協働的な学びにつなげていく。【各単元】 児童が主体的に学習を進めていけるように、自分で課題を決めその解決手段を考える場を設定する。【各単元】

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題がみられた。既習の漢字を文章中で使う習慣が身に付いていない児童が多く、漢字の使い方や意味の理解が不十分であると考えられる。算数では、「数と計算」領域の分数の計算に課題がみられた。分数の意味や仕組みの理解を十分にしていないことが考えられる。分数の計算力を高めるためには、計算のルールだけでなく分数の概念の理解が重要である。理科では、「地球」を柱とする領域に課題がみられた。水の温度による状態変化の理解が不十分であると考えられる。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。今後も基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた取り組みを継続していく。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」では、事実と感想、意見などの叙述を基に要旨を把握すること、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに課題がみられた。算数では、「変化と関係」に課題がみられた。問題解決に必要な数量を見いだすこと、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて表す力が不十分であると考えられる。理科では、「地球」を柱とする領域に課題がみられた。実験結果から理由を導き、結論を明確にする力が不十分である。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」に対する回答の割合は低い傾向にある。ICT活用の割合も低いことから、今後もICT機器を効果的に活用しながら自分の思考を表現できるような授業ができるよう、教職員の研修を積んでいく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝のぐんぐんタイムにて、「ドリルパーク」や「プレテスト」を活用して、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。自分の学びを振り返り、次の学習や課題設定に繋がっていないのが課題である。	変更なし
思考・判断・表現	C	自分の考えを表現する際に、理由や根拠を明確にすることがまだ不十分である。また、ICTを活用すること、児童主体の個別最適な学びを進めることにも、学校全体での実施には課題がある。	資料や文章を読み取る力を向上させるため、読書活動の充実を図る。【朝読書・秋の読書週間の実施】

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評 価

A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)